

Amazon Web Servicesのための導入・活用支援ソリューション

導入事例 | 神東塗料株式会社様



所在地	兵庫県尼崎市南塚口町六丁目 10番73号
設立	1933年4月17日
従業員数	453名(連結)
事業内容	塗料、顔料、合成樹脂、油脂、化成品等の製造、加工、売買
URL	https://www.shintopaint.co.jp/

オンプレミス環境のVDIと基幹システムをAWSに移行

総合塗料メーカーとして事業を展開している神東塗料株式会社は、ハードウェアの保守期限を機に、オンプレミス環境で運用してきたVDI(仮想デスクトップ)と基幹システム(mcframe)を、「Amazon Web Services(以下、AWS)」に移行しました。システム基盤のクラウド化により、守りのBCP対策と、事業成長に向けた攻めのIT改革が実現しています。

課題

災害などに備えたBCP対策のさらなる強化

ハードウェア障害時、情報システム担当者の対応負荷が大きい

サーバーリソースの拡張、システム切り替えなどで多くの人的リソースが必要

効果

VDI環境から基幹システムまで、すべてのシステム基盤のクラウド化が実現

障害復旧などに要していた工数を、ITの活用推進業務へシフト

スピーディなシステム導入やリソース拡張が実現

SOLUTION

基幹システムを意識したVDI構築を実施

- オンプレミス環境で稼働していたVDIと基幹システムを「AWS」上に移行
- 基幹システムを意識してVDIをクラウド化し、ワンストップソリューションを提供
- VDI環境はサーバー(Amazon EC2)+マルチセッション環境を採用してコストを抑制
- VDIは外出が多い営業部門や技術部門の約170名(社員の約半数)が利用

神東塗料株式会社 様 INTERVIEW

取締役
(企画・経理室)
長尾 俊彦 氏



企画・経理室
情報システム
部長
永井 康浩 氏



企画・経理室
情報システム
課長
藤原 義規 氏



背景 障害のリスクが高く、対応負荷が増大

工業用や建築用、防食用、道路用など、幅広い用途に向けて塗料を提供している神東塗料。「水の神東」として、環境対応型塗料を業界に先駆けて開発し、現在は取扱製品の80%を占めています。

そんな同社の業務を支える各種システムは、オンプレミス環境で運用してきましたが、ハードウェア障害などのリスクが高く、障害発生時には夜間や休日を問わず対応することがありました。そこで、VDIと基幹システムのサーバー更新を機に、クラウドへの移行を決断しました。長尾氏はその狙いを次のように語ります。

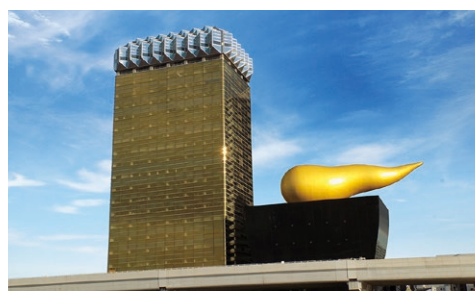
「攻めと守りのバランスを取りながら推進している当社のIT戦略に欠かれないのが、インフラ環境の整備です。守りとしてのBCP対策は、事業所内での管理からデータセンターの利用へと移行することで推進してきましたが、一歩進めて全システムのクラウド化を図り、攻めとしてのIT環境を構築することにしました」

取り組み 世界で最も広く採用されているAWSを採用

クラウド移行を決断した同社は、複数のサービスを比較した中から「AWS」の採用を決めました。その理由を永井氏は次のように語ります。「検討当時、当社の基幹システムであるmcframeの稼働実績があったクラウドサービスは『AWS』のみでした。『AWS』は世界で最も広く採用されているクラウドであることから、安定運用の観点からも評価しました。経営陣には大企業での採用実績、SLA、耐障害性、ダウンタイム、コストなどの根拠を示して理解を得ました」

移行パートナーには、mcframeの導入・運用を支援してきた日立ソリューションズを採用しました。藤原氏は「2009年の初期導入から現在まで、運用サポートや機能改善、周辺ソリューションの紹介など、継続的に支援してもらってきました。クラウドでもVDIと基幹システムを連携したワンストップサービスの提供と、ネットワークを含めた全体的な支援に期待しました」と語ります。

「AWS」への移行は、VDIを先行して実施。2018年10月から2019年6月にかけて構築し、7月に本稼働を迎えました。VDIは、コスト面からサー



アサヒグループホールディングス株式会社様のホール棟オブジェに、神東塗料の塗料が使われています。

※本事例の内容は取材時点(2021年11月)の情報です。※本文中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記しておりません。※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。※本文中の情報は、事例作成時点のものです。

バー (Amazon EC2) + マルチセッション環境を採用しています。「プロジェクトでは、各種ライセンスの扱いがオンプレとは違い、システム構成に工夫が必要になりました。マルチセッション環境に対応しないアプリケーションについては、ブラウザ上で稼働させるなどの工夫をしました」(藤原氏)

VDI構築のもう1つのポイントはデータ移行です。数テラバイトのデータをネットワーク経由で移行する必要がありました。そこで、データを分割して夜間の時間帯に移行し、切り替え時には一斉にデータの同期ができるようにしています。

VDI構築後は2019年11月から2020年7月にかけて基幹システムの移行を実施し、プロジェクトを終えました。

「日立ソリューションズにはアプリケーションからインフラまで幅広くサポートしてもらいました。トラブル発生時における迅速な対応にも感謝しています」(永井氏)

効果 攻めのIT活用へと業務をシフト

現在、「AWS」上に構築したVDI環境は、外出が多い営業部門や技術部門を中心に、全社員の半数にあたる約170名が利用し、社内勤務の管理部門や生産部門はFAT PCを利用しています。

クラウド化により夜間や休日の対応もほぼなくなり、情報システム担当者の運用負荷も軽減されました。

「結果として、ハードウェアの導入や管理、障害復旧などにかかっていた工数を、ITの活用推進などにあてることが可能になり、攻めのIT活用へと業務をシフトすることができました」(藤原氏)

VDI環境は、セッション数に応じて自動的に「AWS」上のサーバーを起動させる運用とし、夜間は緊急用の1台を残してすべて停止するなどして、コストの最適化を図っています。

展望 データ活用基盤を整備して製造業DXを加速

その後も、サブシステムを「AWS」に順次移行し、現在はほぼすべてのシステムがクラウド化されています。今後も積極的にクラウドを活用しながら、ビジネスを加速していく方針です。

「新たなシステム導入はSaaSファーストで考えていますが、既存システムとの連携を考慮するケースなど、必要に応じて『AWS』を活用していきます。クラウド環境での業務利用に向けて、ゼロトラストネットワークの構築も予定しています」(永井氏)

製造業DXに向けて、クラウドに蓄積されていくデータの活用も検討中で、長尾氏は「DBを一元化して社内に分散しているデータを集約し、業務の改善や新たな付加価値の創出に活用していきます」と語ります。

日立ソリューションズには、システム運用の高度化に加え、業務改革も含めた総合的な支援が期待されています。



本事例のwebページはこちら

www.hitachi-solutions.co.jp/aws_innovation_service/case01/

株式会社 日立ソリューションズ

www.hitachi-solutions.co.jp



本カタログ掲載商品・サービスの詳細情報

www.hitachi-solutions.co.jp/aws_innovation_service/

J21S-06-00

2022.03